不登校児童生徒支援における
学校内別室への支援員派遣事業報告書

NPO法人 子どもの権利オンブズパーソンながさき

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

はじめに

昨年度に引き続き、2 年連続で事業に取り組むことができました。1 年目では見えなかったことがたくさん見えた 2 年目でした。

2023 年 3 月現在、国の不登校支援の方針は、「学校復帰を前提とせず、社会的自立を目指す支援」です。そのために必要なことのひとつが、「子どもの意思を十分に尊重する」という視点です。不登校への認識や、支援の在り方が、ここ 10 年程での大きく転換したのです。

しかし、2 年間学校に入れていただいて、その転換に学校のシステムは追い付いていないと感じました。それくらいあまりにも大きな転換なのです。「個々に～」「意思を尊重し～」などの文言が並ぶ現在の国の不登校支援ですが、これまでの集団対応やおとな主導を主としてきた学校のシステムの流用では難しいと思います。

転換した支援方針に対応するためには、学校現場に対して国や県や市町からのより多くのサポートが必須です。どこも人材不足、予算不足の中、今あるものを活用しながらの取り組みはとても素晴らしいですが、いつかきっと破綻します。学校現場は、そのぐらいギリギリのところで踏ん張ってくださっているのだと思います。

この事業に関わってくださった皆様、子どもたち、本当にありがとうございました。

NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき
代表理事 古豊 慶彦

※この事業の事業報告を当法人の Youtube チャンネルにて公開しています。右の QR コードからご覧いただけます。

当団体について

私たちは子どもに関する相談支援事業を行うとともに、子どもの権利条約の周知、子どもに関する制度や施策への提言などを行い、子どものいのちと権利が大切にされ、子どもが安心して SOS を発信することができる社会の実現に寄与することを目的して活動しています。

主な活動

個別救済…毎週 3 日相談窓口を開所し、子どもに関する相談を受けつける。特定の子どもの権利侵害等の解消を目指し、相談支援や関係調整を行う。

制度改善…個別救済の他調査等によって子どもに関する社会的課題等を明確化し、制度等によって課題解消されるよう関係機関等にはたらきかける。

子どもの権利オンブズパーソンながさき とは…

Ⅰ　不登校児童生徒支援における学校内別室への支援員派遣事業 概要

1）概要

不登校や不登校傾向のある子どもが、教室には入れないが学校へは行きたい、学校とは繋がっていたいと思った時に安心して教室以外の居場所を学校内で確保することを目的に、学校内別室に支援員を派遣し、子どもにも学校にも負担の少ない別室利用の促進を図る事業

2）事業に取り組む背景

令和 2 年度の長崎県の不登校児童生徒数は 2279 人で前年度より 116 人増加（長崎県の調査より）となっている。また全国的にも不登校児童生徒数は 8 年連続で増加し、統計開始以降過去最多の人数であった。

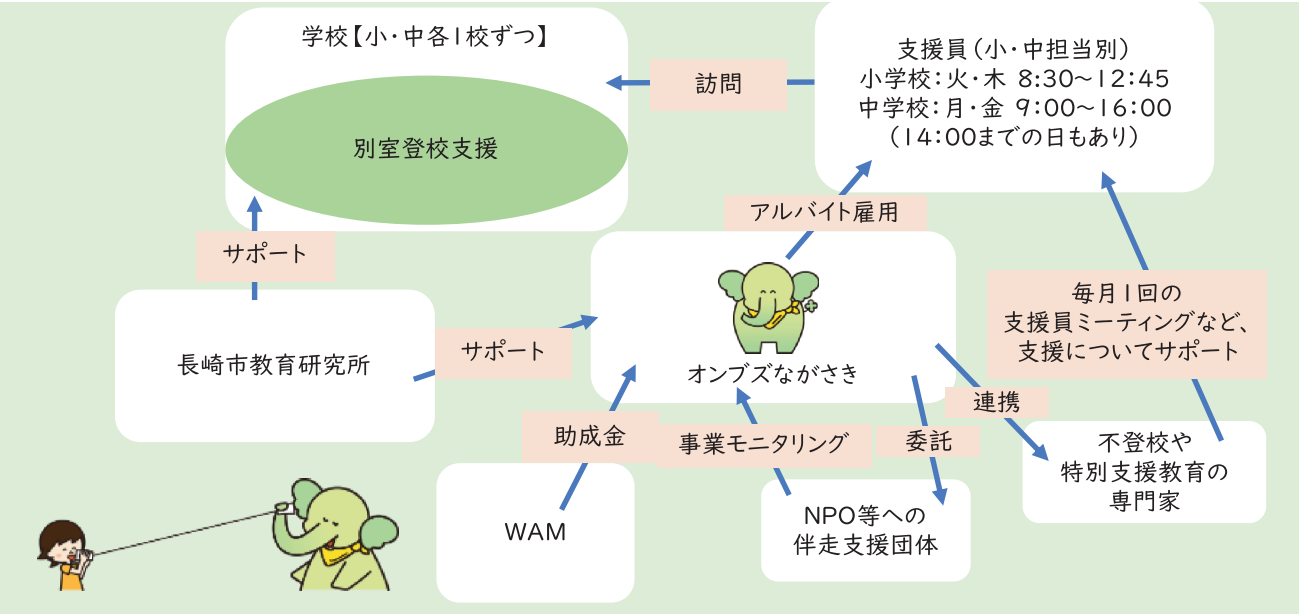
当団体は前年度も学校内の別室へ支援員を派遣する事業に取り組んだ。派遣先は長崎市立の小・中学校各 1 校ずつで、各校それぞれ週に2回ずつ、1 回につき 2 人の支援員を派遣した（計89日実践）。別室には不登校傾向の子どもが来ることが多く、登校はするものの教室には入れないという子どもたちが過ごしていた。

別団体で不登校支援に関わっている支援員のひとりは前年度の実践の中で「関わってきた不登校の家庭とは違う背景がある」と話した。前年度の実践により見えてきたのは、不登校になってから相談を受ける『不登校支援』ではなく、不登校への事前対応となる『不登校予備軍支援』という側面であった。

不登校支援では家庭からの相談を待つことが多いが、前年度関わった子どもの背景には家庭がそもそも不登校の相談に行かない、行けない傾向があり、それは相談に来るのを待っていても見えない、こちらから出向いて初めて出会える課題があるということを意味する。その課題解決に向けては、こちらから学校に入り込み、早期発見できるような関わりが必要だと考えた。

3）事業実施体制

運営事務局：事務局長…古豊慶彦（代表理事）**会計…**中村結花（理事）
事務局…安達和美（理事）・居村弘子（理事）・古豊史子（理事）・森田知美（理事）
伴走支援者：広木克行さん（神戸大学名誉教授）　※専門は臨床教育学、教育制度論
石川衣紀さん（長崎大学教育学部准教授）　※専門は教育学・特別支援教育
外部評価団体：認定 NPO 法人アカツキ（福岡県）※NPO を対象とした伴走型コンサルティング等



Ⅱ 「学校内別室への支援員派遣事業」

1）目的

別室利用を必要とする子どもがいる長崎市立の小・中学校へ支援員を派遣し、別室利用の促進と別室対応による教職員の負担軽減を目的とした。前年度は支援員の研修に時間を割き準備を徹底した。今年度はその準備期間を活かし、1 年を通して実践を重ねた。

2）内容

前年度の実践校2校において継続して実施させていただいた。支援員は前年度から継続が3名（当団体理事含む）、新たに3名の計6名で実施した。

3）実施スケジュール

日にち	実施内容
4月8日（金）	長崎市教育研究所と事業について打ち合わせ
4月22日（金）	実践先中学校へ挨拶に伺う
4月26日（火）	実践先小学校へ挨拶に伺う
5月9日（月）	中学校で実践開始
5月10日（火）	小学校で実践開始
5月18日（水）	事業全体についてのミーティング
5月20日（金）	実践先中学校へ中西あつのぶ長崎市議会議員が見学に来られる
5月26日（木）	支援員ミーティング
5月30日（月）	支援員ミーティング
5月実践日数	小学校：6日（日にち→10・17・19・24・26・31） 中学校：5日（日にち→9・20・23・27・30）
6月12日（日）	支援員研修会
6月30日（木）	支援員ミーティング
6月実践日数	小学校：10日（日にち→2・7・9・14・16・21・23・24・28・30） 中学校：6日（日にち→3・6・13・17・20・27）
7月1日（金）	支援員ミーティング
7月14日（木）	支援員ミーティング
7月21日（木）	支援員ミーティング
7月25日（月）	支援員ミーティング
7月27日（水）	事業全体についてのミーティング
7月28日（木）	長崎県教育庁児童生徒支援課へ事業報告
7月29日（金）	小学校と事業に関しての情報共有・意見交換等
7月実践日数	小学校：4日（日にち→7・12・14・19） 中学校：5日（日にち→1・4・8・11・15）
8月26日（金）	中学校と事業に関しての情報共有・意見交換等
9 月実践日数	小学校：5日（日にち→15・20・22・27・29） 中学校：5日（日にち→5・12・16・26・30）
10月20日（木）	支援員ミーティング
10月実践日数	小学校：7日（日にち→4・6・11・18・20・25・27） 中学校：8日（日にち→3・7・14・17・21・24・28・31）

11月28日（月）	支援員ミーティング
11月実践日数	小学校：7日（日にち→1・10・15・17・22・24・29） 中学校：8日（日にち→4・7・11・14・18・21・25・28）
12月9日（金）	中学校課外活動で長崎大学見学
12月14日（木）	事業全体についてのミーティング
12月20日（火）	実践先小学校に菅達也さん（鎮西学院大学現代社会学部社会福祉学科特別支援教育コース准教授）と学生1名が見学に来られる
12月21日（水）	長崎市教育委員会が行う校内適応指導教室の在り方について研究を行っているモデル校（小学校）見学
12月27日（火）	支援員ミーティング
12 月28日（水）	支援員ミーティング
12 月実践日数	小学校：7日（日にち→1・6・8・13・15・20・22） 中学校：7 日（日にち→2・5・9・12・16・19・23）
2023年 1月5日（木）	長崎市教育研究所へ今年度事業の簡単なご報告及び次年度についての相談に伺う
1月5日（木）	次年度についてのミーティング
1月6日（金）	長崎県教育庁児童生徒支援課へ今年度事業の簡単なご報告及び次年度についての相談に伺う
1月30日（月）	支援員ミーティング
1 月実践日数	小学校：6日（日にち→12・17・19・24・26・31） 中学校：6 日（日にち→13・16・20・23・27・30）
2月9日（木）	西海市教育委員会が事業について話を聞きにオンブズルームに来所
2月25日（土）	長崎市議2名とこの事業の報告及び不登校支援についての意見交換を行う
2月27日（月）	西海市適応指導教室「とまと教室」見学
2月28日（火）	支援員ミーティング
2 月実践日数	小学校：6日（日にち→2・7・9・14・16・28） 中学校：8日（日にち→3・6・10・13・17・20・24・27）
3月1日（水）	支援員ミーティング
3月13日（月）	コミュニケーショングッズに関する講座【一般社団法人 トムテのおもちゃ箱様】
3月31日（金）	支援員ミーティング（予定）
3 月実践日数 （予定日含む）	小学校：5日（日にち→2・7・9・14・23） 中学校：8日（日にち→3・6・10・13・14・17・20・24）

4）実施内容

①小学校（2022年5月～2023年3月）

実施体制：支援員3名で実施。昨年度からの継続2名（うち当団体理事1名）。今年度新たに1名。

実施日時：毎週火・木曜日の8：30～12：30に各日支援員1～2 名で対応。

実践日数：63日

関わった児童数：延べ203名（3月14日まで）

実践概要

＊支援員は学校へ着くと別室として利用できる部屋に待機するが、利用する児童がいない時には校内巡回する。

＊教室に入りにくい児童やその日の調子や精神状態で授業から少しの時間抜ける児童などが主に利用する。

＊別室で過ごす時には折り紙、おしゃべり、絵を描くなどをして過ごしている。
＊その日の終わりに関わった児童の名前や何をして過ごしたかなどを日誌に記入し提出。

支援員の感想

【小学校担当】

今年度は昨年度と違い校内巡回を行い、その影響もあり、昨年度より多くの児童と関わる機会がありました。

集団生活が基本となる学校生活の中では、スケジュールや集団行動に可能な限り合わせていく必要があります。そのような場面に対しての練習する機会という側面もあり、進学し、社会に出ていくうえで、集団の中で生活していく術を身につけていくことは必須です。

そのことを理解したうえで、私はあえて、「集団から離れることをネガティブに捉えない」という経験も必要なのではないかと、この１年を通して感じました。

集団から離れることの良い点として、ひとつは「今は自分だけを見てほしい」という誰でも欲する願いに応えられることがあります。集団の中のひとりとしてではなく、個として見てもらえる時間があるという実感が、集団のひとりとして見られても問題なく過ごせる安心感につながると思います。

そしてもうひとつ、今後子どもたちが生きていく過程において、「こうでなければならない」という、いわば先入観のような価値観から、自分自身を守る術を身につけられるという可能性です。言葉にできなくても、理由がはっきりわからなくても、「どうしてもそうできない」と感じたときに、できない自分を責めるのではなく、できない自分と上手に付き合うために、他者を頼り、休息も含めて自分自身のペースを自己理解しながら明日に向かうことができるということを、これからの学校生活の中で知ってほしいと思っています。

お忙しい中この取り組みをあたたかく受け入れてくださった学校の皆様には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

【小学校担当】

支援員として2年目。今年度は、別室に居るだけではなく、校内を支援員が巡回することも行いました。多様な子どもたちと出会い、かかわることができました。

子どもたちとかかわるなかで、学校には来ているけれど教室に居場所を感じることができない子どもが一定数いることを知りました。居場所を感じることができない理由は子どもたち一人ひとりさまざまですし、理由がはっきりと分からない子どももいました。そんな子どもたちが廊下をウロウロしてるところに支援員が声をかけて、別室でいっしょに過ごしたり、廊下で過ごしたり、時には教室までいっしょに入ったりして、子どもたちがまた教室に戻って行くのを見送りました。元気に戻って行く子どももいれば、嫌々戻って行く子どももいました。私たち支援員と過ごす時間が子どもたちにとってすこしでも良いものであればいいなと思います。

周りから見れば「甘え」とか「逃げている」と言われるような子どもたちの行動も、いろんな背景や理由があるのだと支援員として子どもたちとかかわるなかで感じました。その背景や理由にそっと寄り添いながらかかわることが大切なのだと私は思います。子どもたちが心地良いと感じることができる場所や時間が学校や子どもたちに身近な場所に今後増えるといいなと思いました。

【小学校担当】

初めての支援員でした。私が行かせていただいた学校では、巡回をしたり、別室に来る子どもたちと関わったりすることができました。

教室外の様子を担任の先生や他の先生に伝えることで、より子どもたちの気持ちに寄り添うことにつながると感じました。

ですが、教員の中には遊びに行っていると感じているところもある様子でした。子どもたちも体を動かしたり、

工作したりしていたので、そう感じてしまうのは仕方のないことなのかもしれませんが、どうして別室にいるのか教室から離れるのかということを考えることが必要だと感じました。

また、学校の居場所として、落ち着く場所として、別室を設けているのに、子どもに別室の利用制限をしているのは矛盾しているのではないかと感じました。

今後、別室が子どもたちにとって心地の良い場所や居場所として利用できるといいなと思いました。

②中学校（2022年5月～2023年3月）

実施体制：支援員4名で実施。昨年度からの継続2名（うち当団体理事1名）。今年度新たに2名。

実施日時：毎週月・金曜日の9：00～16：00に各日支援員1～2名で対応。9：00～14：00に1名、11:00～16:00に1名というシフト制のような形。※今年度は配置できない日、時間帯もあった。

実践日数：66日

関わった児童数：延べ238名

実践概要

＊支援員は学校へ着くと別室へ行き利用する生徒と過ごす。この学校の場合、利用する生徒は別室の利用申請をしている生徒たちで、登校した時には教室へは行かず別室へ来ることが多い。登校時間や下校時間、利用する頻度なども生徒によって違う。

＊生徒によっては出ることができる授業に出席している。定期テストも教室で受けたり別室で受けたりしている。

＊別室で過ごす時には多様なカードゲームや卓球、パズル、おしゃべり、読書、自学などをしている。

＊給食を別室で食べる生徒と一緒に支援員も給食を食べる。

＊その日の終わりに関わった生徒の名前や何をして過ごしたかなどを日誌に記入し提出。

支援員の感想

【中学校担当】

今年度中学校に行かせていただき、一緒にカードゲームやパズル、オセロ等を行い、少しずつではありますが、子どもたちとの距離が縮まったように思えます。

また、子どもたちとの関わりの中で印象深かったエピソードが1つありました。午後にみんなで談笑していたとき、別室の話になりました。「別室がなかったら、学校には来ていない。」「別室がなかったら、ずっと保健室利用だったよ。」「別室に感謝だね。」などのような発言が飛び交いました。

私は黙って聞いていましたが、子どもたちが別室に救われ、居心地の良い場所になっていることが分かり、自分自身もこれまで子どもたちのために関わった時間が全て報われる瞬間でした。この活動に関わることができ、本当によかったと心から思います。

【中学校担当】

今年度は別室の生徒たちと初めて課外活動を実施したことが印象に残っています。学校の協力のもと、授業があっている時間に学校外へ出て行う活動は新鮮で、皆楽しそうにしていました。

平成 28 年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育機会の確保等に関する法律」ができ、「学校復帰ではなく社会的自立を目指す支援」が不登校支援の核となりました。私はこの文言の「学校復帰」は「教室復帰」と解釈することも可能だと考えています。

法律がつくられていく過程をみれば、「学校復帰ではなく～…」という文言の背景には、どこで学んでいても（例えば家庭やフリースクールなど）、周囲のおとながその姿を尊重していくことが必要だという意味が込められています。そう考えれば、教室に入れていなくても、学校内の別室での学びやその姿を尊重するという解釈は自然です。

さらに言えば、学びとは、いわゆる教科科目だけではなく、「社会的自立を目指す」ものであれば、学びとして

捉えていく必要もあります。令和 4 年 12 月に改訂された生徒指導提要に「将来の社会的自立に向けて、現在の生活の中で、『傷ついた自己肯定感を回復する』、『コミュニケーション力やソーシャルスキルを身に付ける』、『人に上手に SOS を出せる』ようになることを身近で支えること」とあるように、学力に直結する支援だけではない視点が必要となってきています。

今回実践させていただいた中学校にはそのような機会を保障する別室があり、別室の中で穏やかに過ごす子どもたちに触れるたび、このような居場所がどの学校にも必要なのだとあらためて感じました。

お忙しい中この取り組みをあたたかく受け入れてくださった学校の皆様には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

【中学校担当】

支援先の中学校に週に1～2回お伺いしております。1 年半生徒たちと時間をともにし、生徒たちの成長をともに喜ばせていただいています。

友人関係に難しさを感じていた生徒が友達を誘って遊びに行くようになったり、学校に来ることに苦手意識を持っていた生徒が高校進学に期待を持つようになったり、自分の得意なことを新たに発見することができたり。保護者や先生のほかにも第三者となる大人との関わりをきっかけに、子どもたちが持っている可能性や自分らしさを見つけることができたらいいなと思いながら生徒たちと関わってきました。

別室が生徒たちにとって心を休めることができる場所としての役割を果たせているといいなと思います。

なにか大きなことが出来るわけではないですが、学校内別室という生徒たちにとっての安心安全な場所で支援員と関わることが、生徒たちにとっての休息になり、様々な考え方や選択肢に気づき、少しでもエンパワーメントに繋がればうれしいです。

【中学校担当】

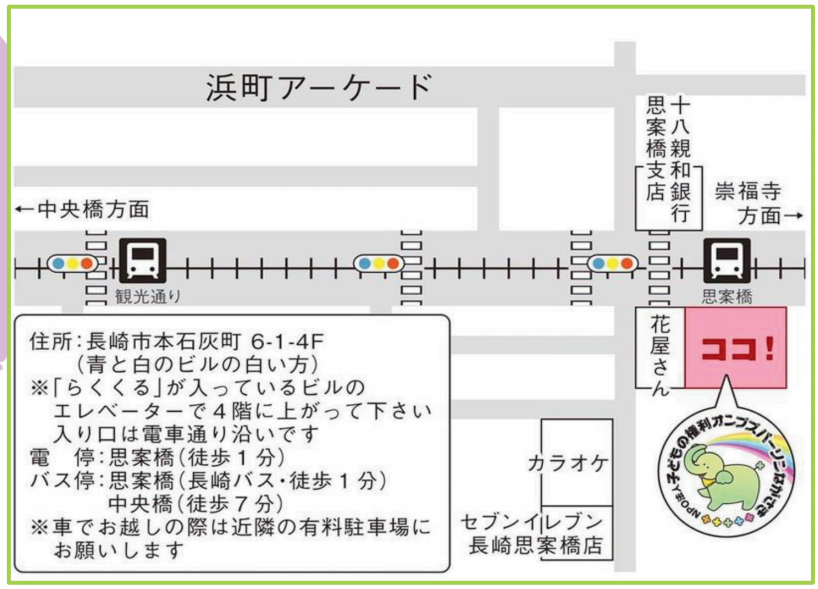
支援員として子どもたちと直接関わることが出来ました。

たまに、子どもに対して注意すべきかどうかという葛藤はありましたが、特にそういう場合に全体ミーティングがあって話し合う場が設けられており、よかったと思いました。

オンブズルームは

ここにあるよ

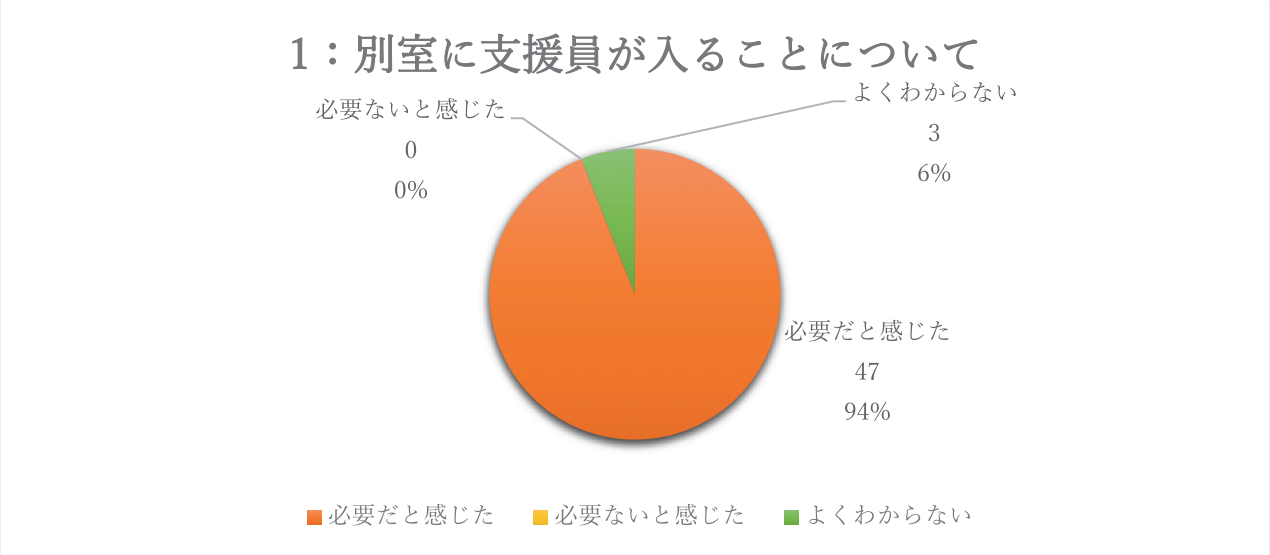
（2023 年 3 月現在）



5）学校内別室への支援員派遣事業をふり返って

①支援員派遣についての調査への回答結果（学校職員用）

1：別室に支援員が入ることについて【回答数：50】



①必要だと感じた【47】	②必要ないと感じた【0】	③よくわからない【3】

選択した理由※一部抜粋して掲載しています。〇の数字は質問1の回答番号

【小学校】

①教室になかなか入れない子がその子らしく活動しているのを見かけたから。

①教室をとび出したとき、どこにいるかをすぐに探してくださり、別室で対応していただき助かりました。

①多くの大人の目があることが大変ありがたかったです。

①教室で落ち着かない子への支援がとても助かりました。

①子どもだけにするわけにいかず、大人がいるのはありがたいです。

①大変助かっています。数も時間も増やしてほしいです。

①一斉授業に合わない児童を見ていただけたので、大変助かりました。

①不登校の児童にとってよい場となっていたから。

①個別対応を担任ができないから。教室での指導に適応できない児童は、どこの学校でもいるから。

①教室に入れない子、じっとできない子の文字通り拠り所となっている。また職員にとっても多くの目で子どもたちを見ていただけるので大変有難い。

①教室に入れない児童へのフォロー。支援など、子どもたちの居場所となっており、情緒が安定しているから。

①個別での支援・関わりの必要な子の登校刺激なっているため。

①支援員さんがいることで教室に入ることが児童が別室で気分転換を図り、教室に戻ることができたりした。保健室登校なども近年はコロナ対応があり難しいため、非常に助かりました。

①子どもたちを多くの目で見守っていただけるため、とても助かっています。

【中学校】

①別室生徒に携わりたいのですが、授業等により、本人との時間が充分にとれないので、大変助かるから。学校関係者（職員）ではないことで、生徒が身囲えなくてすみ、気楽に通室できるケースがあるから。

①閉鎖されず、人と交流（関係作り）ができる。

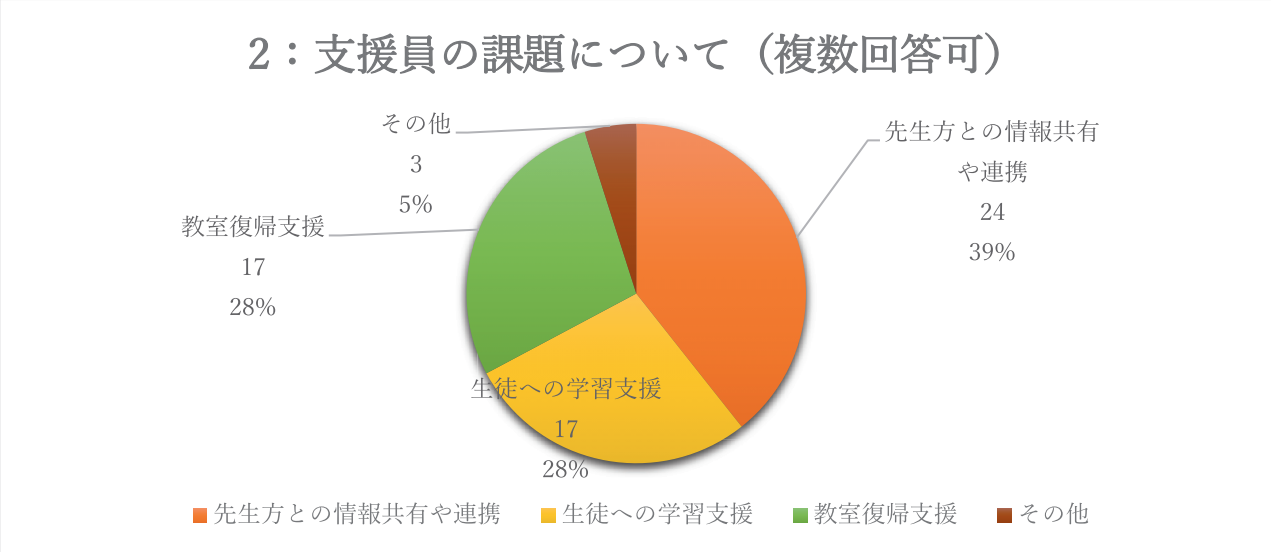
①私たち教諭よりも近い存在として彼らが親しんでいるからです。

①授業があったりして対応できない場合が多いので、別室で支援員さんに入っていただけると非常に助かる。

①学校教員とは違う立場の人が生徒に関わることは時には必要だと感じています。

①生徒それぞれの理由を把握されており、生徒たちの思いによりそいながら対応していただいていることに感謝しており必要性を感じている。
①支援員が入ると生徒の活動が活発で成長している。
①本人が安心する居場所の１つとして、話し相手になってもらい、生徒が登校に前向きになれている。
①生徒たちが心を聞いて接している様子を見て、とても必要だと感じました。生徒たちもとても心の頼りにしているようでした。
①ゆっくりと話をする。ささえる人がいる。
①別室の生徒が安心して登校できると思われる。
①特別支援を必要とする生徒が増えているが、その生徒に対応できる職員が少ない。また個々の生徒の対応においても、社会性等を身につけるスキル学習にしても、やはり、（大人の）誰かがいて関わることで少しずつ改善されていくと思われるから。
①CS の必要性と相違の中、連携・協力をしていくことは大きく学校運営につながる。
①教員の授業時数が多く、負担が大きくなるので、支援員の方に入っていただくと助かります。
①教職員以外の方が関わってくださることで、子ども達も伸び伸びと過ごすことができていると感じています。
①教員ではない外部の支援の方と交流できるのが、生徒にとってもいいと思うし、教員の時数もとても助かっている。
①手が多い方が良い。
①教員の数不足のため、別室にて対応できる方の存在は、有難く思います。
①学校関係者ではない方が、子どもと一緒にすごしていただけることで、支援員の方を通して、外の世界を感じたり、大きな意味での世界に感じたり、大きな意味での世界についての話をすることができたりすることが、子どもにとってとてもいい刺激となっていると思います。
①多くの人で子どもを見ることで、生徒把握につながっていく。
①質の向上（生徒との接触など支援）のためにも、様々な視点での支援が必要。
①職員の手と目が届かない陸も、丁寧に対応していただき、感謝しかありません。
①生徒の居場所がつくれることと、学校に登校することで教室復帰する可能性も出てくるから。合わせて教員の負担軽減につながる。
①担任や学年職員等、常に一緒にいることはできないので支援員の方々の存在は本当にありがたいです。
①学校の教員数では手が足りない。
③接する場面がなかった。
③今年度は見に行く機会がなかったので分かりませんが、昨年度は別室で卓球やカードゲーム等で遊んでいる姿があったので、少し目的とは違うかなと思っていました。

2：支援員の課題について（複数回答可）



①先生方との情報共有や連携【24】	②生徒への学習支援【17】	③教室復帰支援【17】	④その他【3】

選択した理由※一部抜粋して掲載しています。〇の数字は質問2の回答番号

【小学校】

①日によって、全然教室にいれなかったりがんばれたりすることがあります。教室でがんばれる時は教室にいてほしいと思います。

①もっと打ち合わせをしっかりと確保したいですね。

①学校側の課題であるが、各担任と支援員の方の情報共有が必要と考える。預けっぱなしにならない様に、担任と子どもが話した上で支援員さんに見ていただくようにしたい。

①②担任が支援員さんだけに丸投げになってしまったこともあると思います。ドリルやプリントなどを持たせるようなこともしないといけないと思いました。

①③限られた時間の中で情報共有することが子どもたちのためになるので、今後も工夫していきます。

①②③連携・相談する時間がとれない。どんなことをされているのか、よく分からない。どこまでどんなことをお願いしてよいか分からない。

③支援員さんの力は、保育的なところで、復帰については別のアプローチが必要となるから。

④教室で座って過ごせていたときも、支援員さんを見かけると、別室に行きたがる子どもがいるので、どうしたらよいか迷うときがあります。

【中学校】

①時間的に難しいから。

①たぶん、教員の方の時間がなかなか合わなかったり、支援員の方の時間が限定されているという物理的な問題と思います。

①子どもたちの情報は小さなことでも教えてもらいたいです。

①一部の授業時数が多い先生方との情報共有や連携の時間が教員にない。

①日誌を通して毎回の活動についてのやりとりを行ってもらっていますが、可能であれば毎回担任との情報共有ができた方が、お互いにとって細やかな支援につながっていくと思います。

①時間が限られており、連携をはかる余裕がない。

①②常に日誌等に生徒の活動の様子や今思っていることアドバイスし、細かく報告していただいている。

①②担任がわからない詳細な気付きなど、とても助かりました。私たちが見えないところをよく見ていただいてい

たと思います。また、教室復帰のためにも学習支援は不可欠で、生徒たちの最も求めているところだと思います。
①②本人達の意識の問題でもあるのですが、学習への意欲が低いこと、わからないことで更に教室から足が遠のいてしまうことものあるので、そこの部分での今後、手立てが何かできればと思います。
①③情報を共有して、生徒理解を深めていくことが大切だと思います。
①②③あくまで別室は、教室へ戻る通過点となるべきなので。
①②③授業を受けていないので、どうしても学習が遅れがちになるし、高校受験でも選択肢が少なくなるかも。
②生徒が抱えている課題は一人ひとり異なるため、それぞれに対応する（準備しておくこと）は難しいと思います。
②別室が息抜きになっているのは、すごくありがたく思います。ただ、別室にいる時は授業に出ていない状況で評価材料もないので、どうか評価できるようにするのが、課題かなと思います。支援員さんの課題ではなく学校としての課題ですかね。
②なるべく、授業時間に学習に向かえるようにしてやってほしい。
②③（生徒への学習支援については）複数の生徒が、別々の活動をする難しさがある。（教室復帰支援については）支援員の方が、どこまで生徒の内情に関わることができるか。
②③あくまで教室に戻るためのステップだと認識しております。
②③居心地が良い分、教室への復帰がなかなか進まない子もいるのかな…と思いました。
②④学習支援とともに、コミュニケーション力を高める支援をお願いしたい。
③共通理解の下、進めていくための連携は大切。夏にお話をする機会があり良かった。保護者も含めた場が必要と考える。
③あくまで教室に戻るための別室登校なので、少しずつでも教室復帰の機会を作ってほしいと思うから。
③楽しい時間に満足し、教室へ戻れずにいたようです。
③別室が楽しい、で終わるのではなく、その後の動きを強くしていきたい。
④実際に入っていただき、情報共有しながら子どもをよりよい方向に導くことが大切なので、より連携を深めていければ幸いです。

3：支援員の派遣について思われたことをご自由にお書きください※一部抜粋して掲載しています。

【小学校】
☆不登校の子どもに対し、支援員さんと一緒にどのようなことができるか明確に分かると良いと思います。いつもありがとうございます。
☆いつもご支援いただきありがとうございます。一対一の対応ができないときに、別室で過ごしていただき助かりました。別室から戻ってきたときは、心落ち着き、次の活動にうつることができています。ありがとうございます。
☆支援員の方々を子どもたちにどうご紹介するとよいのかが難しく、はっきりとしないまま2学期も終わってしまい申し訳なく思います。自分のことをとにかく見てほしい子どもたちを温かく見守り、声を掛けていただき、本当にありがたかったです。お世話になりました。ありがとうございました。
☆できれば、こっそり見ていただけるとありがたいです。でもいつも指導、支援、本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いします。
☆いつもありがとうございます。
☆いつもお世話になっております。子ども達をサポートしていただき、ありがとうございます。
☆教室に入れない児童にとって古豊さんたちの支援はとてもありがたかったです。
☆いつも、さりげなく、より添っていただきありがとうございます。登校でき、笑顔で人と接する機会を児童に与えてくださり、本当に教育現場にとって必要な方だと感じています。
☆本当に有難く思っています。多くの子どもたちや職員が救われています。ただ、本校はこの様な形を取っていた

だけていますが、多くの学校では支援員さんがいません。行政がきちんと施策化して、このような活動を支援していくことを望んでいます。
☆子ども一人一人のよさを引き出し、心を落ちつかせる環境づくりに感謝しています。現在の教育課題は学校だけで解決することはできません。たくさんの方々に応援していただき、共に子どもたちのために力を尽くしていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いします。
☆本学級には、家庭的な課題のある子が多数在籍しており、担任だけでは支援が難しいところを、たくさんサポートしていただきました。心より感謝申し上げます。これからも多々ご迷惑をおかけするかと思いますが、よろしくお願いいたします。
☆いつも教室に入れない子どもたちを支援頂き、本当にありがとうございます。本来なら教員がもっと別室の子たちにも関わらないといけないところですが、他の児童への対応や時間に追われ向きあえない現状です。こちらも努力が必要だと感じています。そんな中、子どもたちの居場所を作って頂き、本当に感謝申し上げます。
☆授業中など校内を回って教室などを見守っていただいてとても安全しています。
☆教室にとどまっていられない子の対応をしていただき、ありがたく思っています。これからもよろしくお願いします。

【中学校】
☆家にいるだけでなく、外出（登校）意欲につながっていると思います。いつもありがとうございます。
☆今後ともよろしくお願いします。
☆教師が多忙でなかなか対応ができないときに支援員さんがいると別室で活動することができるのでとても助かる。別室でも学習するときにわからない問題で質問ができるのは登校するメリットになる。個別で対応してもらえるので、子どもたちも安心して学習に取り組むことができているので、本当にありがたい。
☆担当（担任）が把握しきれていないところ、特に今感じていることなど助言していただき、生徒が安心して登校してこれる場を作っていただき感謝しています。
☆今後も続けて派遣してほしい。
☆毎日の記録を見ても、とてもていねいに一人一人に関わっていただき、大変ありがたいと思いました。生徒たちが何より楽しそうで、たくさんの笑顔が見られ、学校生活が充実したものになっているのがよくわかりました。ゆっくり関わることができない担任にかわって、よくアンテナを張っていただき、小さな気付きもいつも伝えていただいて、本当に助かりました。こちらの考えもくみ込んで活動していただき、担任としてもとても心強かったです。本当にお世話になりました。今後ともぜひお願いしたいです。
☆大変ありがたいです。教員が物理的に無理なときもあり、支援員がいてくれるとありがたい。教員ではできないような活動を企画計画実行してくださりありがたい。
☆よくやってもらっている。
☆別室登校の生徒に色々な方向からのアプローチによって、安心感や学習意欲、登校意欲を与えていただけている。ぜひ、これからも支援をお願いします。
☆とてもありがたく思っています。今後も連携を深めながら生徒の安心安全、心身の成長に生かされていってほしいと願っています。
☆私の学級には現状、利用者はいませんが、可能性がある生徒はいます。だからこそ、そこに支援員の方が居て寄り添える体制があることはとても大きいです。
☆協力体制が大切だと思います。
☆いつもお世話になっております。子ども達の話にも向き合ってくださり、そのお蔭で少しずつ話の輪に入っていく姿も見られ感謝しています。却って、ご迷惑をおかけしていること等ありましたら言っていただければと思います。今後もぜひよろしくお願い致します。

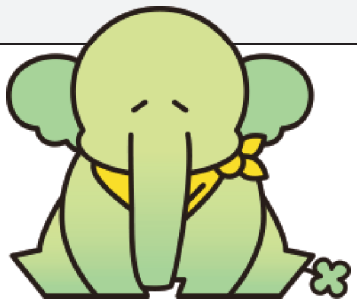
☆わざわざ、私たちが対応できない生徒の相手をしていただき、大変感謝しております。
☆とても重要だとおもいます。今後も、時間、曜日が増えてほしいと思います。
☆いつもありがとうございます。
☆教員だけでは、支援が、行き届かない。
☆今年も支援員の方々が定期的に支援していただけることで、別室に通う子どもも増えてきて、生活の居場所になっていることに心より感謝申し上げます。また、いろんな話をして下さったり、カードゲームを通じてのコミュニケーションや、今年は校外での活動で企画してくださり、子どもたちも支援員さんとの活動を通して「できること」や「やれること」がどんどん増えていて、それこそが大きな自信につながっているものと思っています。
☆専門分野をさらに活かす、計画性と共通理解。お互いの情報交換・共有のあり方（職員間）。
☆いつもありがとうございます!!今後も、よろしくお願いします。本校には、来ていただかなければ困る生徒がいっぱいいると思います!!
☆不登校生徒の居場所づくり、教員の負担軽減につながっており、大変助かっております。次年度も継続していただきたいです。
☆ぜひ、来年度もお願いしたい。
☆子どものため、学校のために支援していただき、本当に心強く思っています。学校外の組織（団体）、しかも若い方々が来校してくださるので、生徒たちも新鮮で楽しい日々を送っています。“毎日別室に来ていただきたい”と思うことも多々あります。
☆教室へ入ることが難しい生徒の居場所づくりに、力になってもらっている。

②支援員についてのアンケートへの回答結果（児童生徒用）

1：支援員が来ることについて【回答数：11名】			
①とてもよかった 【10】	②まぁまぁよかった 【1】	③よくなかった 【0】	④まったくよくなかった 【0】

2：支援員が来てよかったことや悪かったこと、感想などがあれば自由に書いてください
【回答数：10名】※一部抜粋して掲載しています。〇の数字は質問1の回答番号

①安心できたし、話し相手にもなってくれました。この1年間の中の楽しみでした。学校に来てよかったと思いました。【小学校】
①いつもＫさん（支援員）がおえかきをしてうれしい!!!ふるとよさんはなんもしない。【小学校】
①いっしょにあそんだりできたし、まなんだりできたからうれしかったです。【小学校】
①悪かったことは、とくになかった。いっしょにあそんでくれて楽しかった。【小学校】
①支援員が来ていろんな遊びをしたり見学にも行って楽しかったです。【中学校】
①友達には言えない話を気軽に言うことができた。【中学校】
①月曜日と金曜日はいつもよりも学校に来ようという気になれます。【中学校】
①ちこくが多い。教室に入れない時に一緒に行ってくれた。【中学校】
①全部私たちと一緒に楽しんでくれてうれしかったです。【中学校】
①支援員がこなくなったらこまる。相談がしやすい。【中学校】



③その他に取り組んだこと

学校内別室支援員研修の実施（新規の支援員）

今年度は一般募集を行わず、当団体のこれまでのつながりの中で支援員を募集した。その結果、今年度新たに支援員として活動してくださったのは全員大学生、大学院生となった。

研修会は各自で昨年度の研修動画を視聴してもらったうえで実施。事業内容の説明と、当団体が用意した事例についてグループワークを行った。各グループには昨年度から継続して取り組む支援員が進行役として入り、実際の支援現場についての話などを共有しながら、様々な意見が出るような雰囲気づくりを大切にした。

昨年度の研修動画を活用することができ良かったが、少人数でのスタートとなったため、後々支援に入れない状況なども出てきて、支援員の配置が想定通りいかなかったことが課題として残った。

朝食を食べられずに登校した児童生徒へのサポート

昨年度も含め事業内で関わるときに、様々な事情により朝食を食べられずに登校してくる児童生徒がいた。その中の一部の児童生徒は、空腹の影響もあり登校時から元気がない、3、4校時になると集中力が切れ教室から出てくるなどの影響があった。そのようなときに学校が独自に対応している様子を目にしたこともある。

そこで補助食品を購入し、学校へお渡しした。支援員が使用するのではなく、学校の判断で必要に応じて使用していただくようにした結果、支援員が関わっていない児童生徒へも届き、必要に応じて活用してくださっている。支援員も特に低年齢の子どもと関わるときには、朝食を食べてきたかどうか確認するように心がけている。

コミュニケーショングッズに関する講座

別室支援に取り組む中では、カードゲームやボードゲーム等を使用して子どもたちと関係構築していく機会がある。気分転換や安心感の醸成につなげる意図があるが、その際、対象の年齢や発達特性、さらに言えば登校頻度やその時の精神状態などを考えながらグッズを選ぶことも重要となる。

そのためコミュニケーショングッズに詳しい一般社団法人トムテのおもちゃ箱様に実際にグッズを使用しながら体験型の講座を依頼し、支援員が受講した。

支援員の多くはこの事業内だけでなく、今後も様々な子どもと関わる機会があるため、今回の学びが活きる機会は多いと考える。

スタッフジャンパーの作成

小学校の実践では今年度から支援員が校内巡回を行うようになった。そのことで多くの子どもたちに見られる機会が増えたので、ひと目で当団体の支援員であるということがわかるように、スタッフジャンパーを作成し、支援に入る時には身につけるようにした。

当団体は別室支援の他に通常時事業で子どもに関する相談窓口を開設しており、年に１回連絡先などを記載した名刺サイズのカードを長崎市近隣の公立小・中学校へ配布している。当法人のキャラクターでもある緑色のゾウが印象に残りやすいということもあり、スタッフジャンパーを着ていると、「そのゾウ見たことある」と言われることもある。

今後も別室支援だけでなく様々な機会で着用し、当団体の周知にも繋げていきたい。

２件の見学

１ 長崎市教育委員会が行う校内適応指導教室の在り方について研究を行っているモデル校（小学校）見学

長崎市議会令和４年第５回定例会（9月15日・6 日目）において、長崎市教育長が「様々な場所での適応指導教室の開催につきましては、現在、小学校１校と中学校１校において校内適応指導教室の在り方について研究を行っているところです。その成果や課題等を踏まえ、今後どのような取組ができるのか検討を進めていきたいと考えています。」と答弁したことから、長崎市教育研究所を通じて見学を希望し実施に至った。

モデル校では、校長室などを含めた複数の場所で、数名ずつの児童の居場所を作っていた。「朝と帰りには担任に会う」「給食は自分で取りに行く」などの決まりごとがあるのは他の学校も同様だと思うが、「教室に入れない児童個々に合わせた時間割の設定」や、教室に入れない児童たちの運動の機会として「体育館を使用できる時間を週に数回確保する（時間割の調整）」などは独自かつ長崎市においては先進的な取り組みであり感動した。

現状の課題として「個々に対応する部屋の不足」や「人員の不足」が挙げられており、今後この研究を踏まえた上での行政施策に期待がかかる。

２ 西海市適応指導教室「とまと教室」見学

西海市では令和2年度から不登校が増加傾向にあるという。市には「とまと教室」という適応指導教室があるが、地域が広い影響もあり、居住地域や家庭の状況によっては利用したくても利用しづらい現状がある。また、市内には離島もある。

市から配布されている PC を使用して在籍学校へ適応指導教室でどのように過ごしたかなどを伝え、それに対して担任の先生などが返答したり、課題などのプリントを郵送しながら取り組んでいる様子はどの地域でも実施する必要を感じた。とまと教室では月１回程度様々なイベントを企画し、児童生徒の来室意欲につなげており、とても素晴らしいと感じた一方、利用人数増加に対して指導員の不足やスペース確保の難しさが課題となっている現状には、対策の必要がある。

上記2件とも、この事業で感じた課題との共通点が多くあり、対策については今後も考えていく必要があるが、この事業では取り組めていない部分も見られ、学ぶことの方が多かった。

ご協力くださった皆様、貴重な機会を本当にありがとうございました。

Ⅲ 「別室派遣支援員事業周知のための実践報告会開催事業」

1）目的

事業の実践を通して、地域にひらかれた学校とともに、地域全体で子どもや学校を支えていくひとつの手段として多くの人たちに前年度及び今年度の実践について知っていただき、制度化への道筋に繋がる機会とした。

2）内容

前年度実践した支援員と専門家をパネリストに、前年度、今年度の実践（実践途中含む）の報告会を開催した。実践報告会は大村市（10月23日）、ZOOM によるオンライン（11月16日）、北松浦郡佐々町（12月11日）と、全3回長崎市だけでなく近郊の市町村でも開催し、ゲストとしてその地域で活動する不登校などを支援する団体に参加していただいた。※大村市、佐々町は会場のみでの開催

ゲスト：【大村市】NPO 法人 schoot 【佐々町】フリースペースなずな

進 行：【ZOOM によるオンライン】認定 NPO 法人アカツキ

3）実施スケジュール

日にち	実施内容
10月13日（木）	実践報告会1回目（大村市開催）事前打ち合わせ【NPO 法人 schoot】
10月20日（木）	実践報告会3回目（佐々町開催）事前打ち合わせ【フリースペースなずな】
10月23日（日）	実践報告会1回目開催 場 所：大村市中地区公民館第3会議室【会場のみ】 ゲスト：NPO法人schoot
10月27日（木）	実践報告会2回目（オンライン開催）事前打ち合わせ【認定 NPO 法人アカツキ】
11月16日（水）	実践報告会2回目開催 場 所：ZOOM によるオンライン配信【オンラインのみ】 進 行：認定NPO法人アカツキ
12月8日（木）	実践報告会3回目（佐々町開催）事前打ち合わせ【フリースペースなずな】
12月11日（日）	実践報告会3回目開催 場 所：佐々町多世代包括支援センター視聴覚室【会場のみ】 ゲスト：フリースペースなずな

4）実施内容

実施については2回を会場のみで、1回をオンラインのみで実施した。その場限りの内容にすることで、実践事例について少し踏み込んだ内容を報告することができた。各回でアンケートを実施した。

①実践報告会1回目（大村市）

開催日時：2022年10月23日（日）14:00～16:00

開催場所：大村市中地区公民館第3会議室（〒856-0814 長崎県大村市古賀島町133-31）【会場のみ】

登壇者：【専門家】石川 衣紀さん（長崎大学教育学部准教授）

【支援員】水町 凪さん 古豊 慶彦

【ゲスト】 内海 博文さん（NPO 法人 schoot）

参加者：13名

内容： 前半は石川さんに進行していただき、支援員の報告を中心に行った。後半は内海さんに進行していただき、学校外の居場所の視点からこの事業について意見交換した。また適宜会場からの質問を受け付け、会場からの質問等にも答えながら行った。

感想アンケート：アンケート回答１１名

●不登校を含む子どもや学校への支援について、お考えがあれば教えてください。（自由記述）

※一部抜粋して掲載します。

当事者である子どもや、保護者、先生、行政、それぞれの動きをゆるやかにつないでくれる存在が必要。当事者がおきざりになっている、、、。（子どもの気持ち）

子どもが生きづらくなく、子どもが子どもらしく生きていければいいなと思う一親です。どのようにしたら支援員になれるのか、すごく興味を持ちました。長崎は何人ぐらいいるのか？知りたいことが増えてます…。

子どもらしく生活できる地域になればいいなと思いました。別室の件で、市教委とは別の機関が入った方が良いという意見はすごく良かったです。ありがとうございました。

ひとりひとりそれぞれ違うので、それを認めてあげられる支援。どの学校に行っても、逃げる場所が有る。

学校の学び方に選択肢が必要だと思います。オンラインも活用できると思います。学校でしか学べないことは社会性等かと思いますが、そこももしかしたら選択肢があれば良いと思いました。

●この会の感想や、あなたの思いなどご自由にお書きください。（自由記述）

※一部抜粋して掲載します。

別室登校やフリースクール等の活動では、必ずしも教室復帰を目指す場ではないことを知れて、不登校支援への考え方を変えることが出来ました。

とても勉強になりました。実際子どもと関わることはありませんが、このように支援員の方々がいることは、とても心強いと思います。今は多様性…ということが多いけど、実際学校は右向け右…なところがまだまだあるので。一人一人の個々を大切にしてくれる大人がもっと増えていくといいですね。とても素敵な時間をありがとうございました。

本日はありがとうございました。参加できて良かったです。まず第１に子どもの心や声を大切にしてほしいと願ってやみません。大村でこのような事業が実現されるのであれば、是非支援員に志願したいと思います。これからも頑張って下さい！

②実践報告会2回目（ZOOM によるオンライン）

開催日時：2022年11月16日（水）20:00～21:00

開催場所：ZOOM によるオンライン配信【オンラインのみ】

登壇者：【支援員】小岱 海さん 水町 凪さん 古豊 慶彦

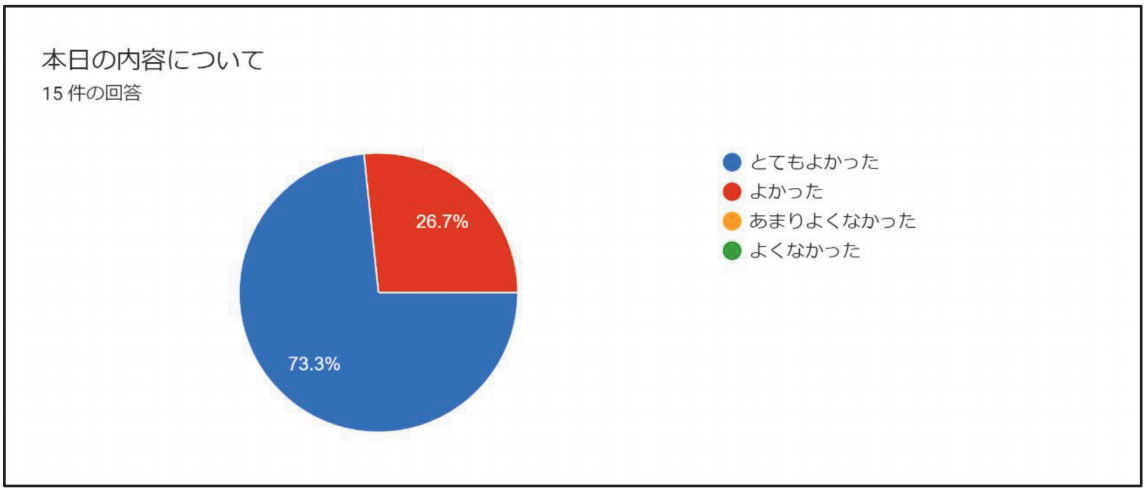
【進　行】永田 賢介さん（認定 NPO 法人アカツキ）

参加者：20名

内容：オンライン開催にすることで遠方から参加しやすくし、他2回（日曜日午後開催）と違う平日夜の開催にして違う層の参加ができるようにした。進行を永田さんにお願いし、簡単な事業全体の説明を行った後、支援員2名が2つずつ事例を報告し、進行との対話により深めた。参加者からの質問は会の中では受け付けず、終了後のアンケート（Google フォームを使用）で受け付け、後日回答をまとめ、参加者へメール送信した。

感想アンケート：アンケート回答15名

●本日の内容について（4 項目から 1 つを選択）



●不登校を含む子どもや学校への支援について、お考えがあれば教えてください。（自由記述）

※一部抜粋して掲載します。

不登校であったり、学校に居場所を見つける事ができない子ども等、相談受けることが多くあります。相談する人が足りてないな、と感じたり、学校に逃げ場がないなと感じたりしています。支援員が常にいてくれる環境がどこの学校にもあればいいなと感じました。

学校の中に、子どもたちへの配慮、人権意識を持ち、かつ教師以外の立場、価値観を持つ人が関わっていくことは、とても大きな意味があるとあらためて強く感じました。自分の地域でもこういった取り組みができないか、考えて動いていきたいと思います。

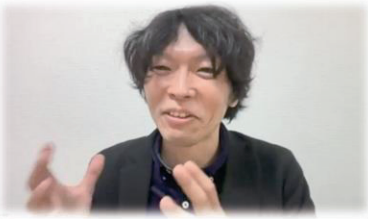
学校に拒否反応がある子どもを学校に適応指導しようとするのではなく、拒否反応が起こらなくなるよう、学校やまわりが子どもに適応していって欲しい。どこでも、様々な形で学びは可能だという認識(とそのような環境整備も)をみんなが持てるようになると、子どもも学校もこんなに追い詰められなくていいと思う。

子どもを中心において、支援していくことが大切だと思います。学校も全職員が考えをアップデートしていく必要を感じました。

●この会の感想や、あなたの思いなどご自由にお書きください。（自由記述）
※一部抜粋して掲載します。

私たちも今年４月より１カ所の中学校にて居場所作りの取り組みを行っていますが、支援の方法等については勉強不足な部分も多く、非常に苦慮しながら手探りで行っております。本日のお話は非常に参考になりました。
今後もこのような機会があれば是非お知らせいただけるとありがたいです。

参加でき、大変参考になりました。学校外の居場所も、学校内の居場所も、どちらも必要だと改めて感じました。自分の地域の学校の先生方、教育委員会の指導主事にもこういった取り組みがあることを伝えたいですし、地域と一緒に取り組む方法をもっと考え動いていきたいと思います！またいろいろと教えていただきたいです。本当にありがとうございました。

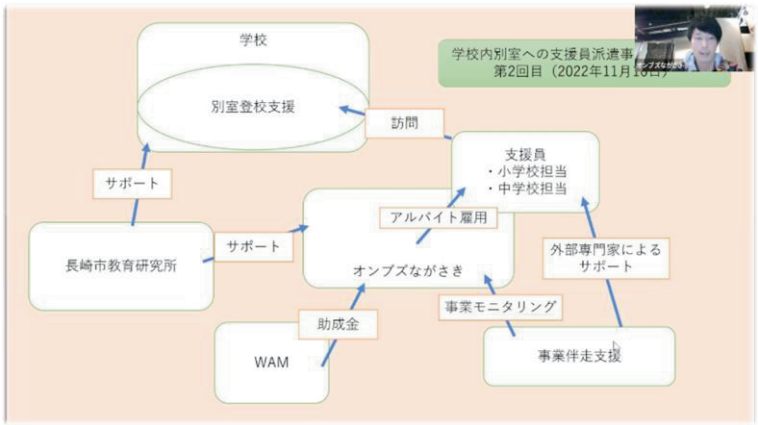


今日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。学校・家庭以外に「何かあったときに居場所がある」という場所があることは必要だと、改めて感じました。そういう場所が校外（地域）にも、校内にもあって、選択肢があるということが大事だと思います。最近「校内フリースクール」という取り組みがあることを知ったのですが、そういう取り組みも今後必要だと考えています。

別室登校や校内巡回を通しての子どもたちと支援員の関わりやその大事さを知ることができました。様々な子どもたちがいる中で、一人一人と向き合った対応が子どもの成長につながっていて、別室登校の支援がそれを担っていることがよくわかりました。ありがとうございました。

若い支援員のお二人の話がとてもわかりやすくて良かったです。子どもたちにとっても少し上のお姉さんという存在が良いのだろうと思います。しかし、若いから、教員ではないからということで、学校の先生から下に見られたり、嫉妬されたりしていないかなと思いました。この取組みの終了時もお話しを聞きたいと思いました。

私は不登校を経験しました。担任からは「宿題はしなくてもいいから」「進学したいならこの学校が一番いい」と言われ、私の考えを理解してくれる人が学校内にいませんでした。だから、今日の支援員さんのお話を聞いて、自分の気持ちを聞いてくださったり、それを学校に伝えてくださったりする方が教師以外にもいてくれるのは生徒にとっても学校にとっても良いことだと思いました。大人が決めたステップが子どもにとっては負担という水町さんのお話がありましたが、とても共感する部分が多く、子ども自身がそのステップを決めてそれを周囲の大人たちが評価し認めてあげる環境が大切なのではないかと考えました。自分自身の経験から私も将来、子どもの教育や福祉に関わりたいと考えているため、参考になる貴重なお話でした。本日はこのような会を開いていただき、ありがとうございました。



素晴らしい取り組みに、支援者の学生さんの姿勢に感激しました。学校が民間と手を繋ぐようになった経緯、学校での教室での担当教員との連携について、支援者の学生さんたちが子ども達の声を聴く上で大切なことをどのように学んできたのか、など、できればお聞かせ願えれば、と思いました。

③実践報告会3回目（佐々町）

開催日時：2022年12月11日（日）14:00～16:00

開催場所：佐々町多世代包括支援センター視聴覚室（〒857-0312北松浦郡佐々町市場免23－1）【会場のみ】

登壇者：【専門家】石川　衣紀さん（長崎大学教育学部准教授）

【支援員】小岱　海さん　水町　凪さん　古豊　慶彦

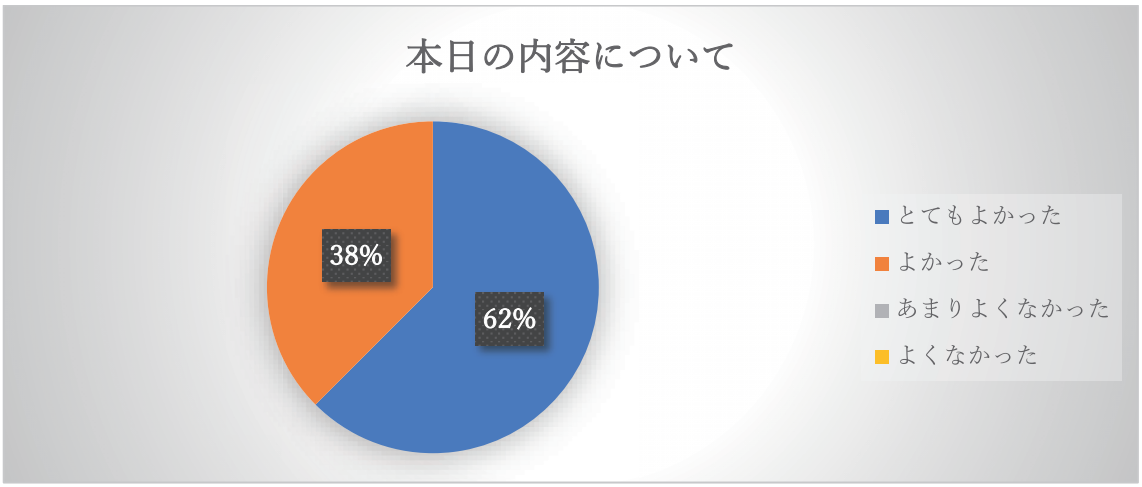
【ゲスト】柳原　佳子さん（フリースペースなずな）

参加者：34名

内容：進行を古豊が行い、前半は支援員2名が事例を報告し、石川さんにコメントをいただいた。後半は柳原さんにも登壇いただき、フリースペースなずなの報告をしていただいた後、会場からの質問に登壇者が答えた。会の最後は石川さんにまとめをお願いした。

感想アンケート：アンケート回答24名

●本日の内容について（4 項目から 1 つを選択）



●不登校を含む子どもや学校への支援について、お考えがあれば教えてください。（自由記述）

※一部抜粋して掲載します。

不登校の子ども達が、すべての子ども達がサポートを受けられるようになるよう、まわりの大人がちからを合わせられたらよいなと思います。

親子をふくむ支援が必要だと思っています。

なずなへの登校を出席あつかいにするというのは学校としてもすすめていきたいと思いました。

全ての子どもの学力保障が学校の使命だと考えてきました。いろんな方面からサポートを受けられる学校になれば、効果も上がると思いました。

●この会の感想や、あなたの思いなどご自由にお書きください。（自由記述）
※一部抜粋して掲載します。

学校や家庭だけで抱えられる問題ではない。学校外で多数関わる機関ができてきているのは喜ばしい。学校に来れない、なずなのようなところへも行けない子どもや家庭についてもどうしたらよいか考えている。

教員とはまた違う立場の方に、時間をしっかり確保された中、温かくかかわっていただける場所があると、子どもたちはどれほど安心し、心の安全をはかっていけることかと思います。大変よいお話を聞かせていただきありがとうございます。

頷ける内容ばかりでした。石川先生のおっしゃるように、その子にとってのハッピー、選択肢の数、コレという出会いを見つけようと日々思っています。早くコレという出会いから本人の世界が広がり、いずれ仕事につながればいいな～と。

とても大切な活動をされていた。学校家庭地域行政ボランティア、みんながとてもいい関係でなくては、子どもたちの支援はできないと思う。そういった子どもたちを取りまく関係がよくなったらいいなと思う。学校も行政も不登校の子どもに対する思いは皆さん同じです。みんながまとまって協力して、子どもたちのための体勢がつくれたらいいと思う。

行政の協力がもっと必要であると考えます。子ども子育て支援が佐々町の重要施策であり、今後も力を入れていきたいと思います。ありがとうございました。

特に「子どもの安心を保障する事の大切さ」が原点であることを再認識させて頂き大きな収穫でした。親にとっても心休まる時間となりました。

とてもうれしかったです。子ども達の事を考えてくれる方々がいらっしゃることを知れて良かったです。もっと、この思いが広がっていくといいなと思います。ありがとうございました。

Ⅳ「その他の事業」

●校内別室支援ガイド作成

1）目的

この事業で得た様々な学びをガイド本としてまとめ、学校内の別室支援に役立てていただけるよう、長崎県内の小中学校に配布することを目的とした。

2）内容

昨年度から継続の支援員、専門家を交え、ミーティングを繰り返しながら内容を作成した。学校の先生や教育委員会など制度をつくっていく役割の方々を主な対象として、パッとみてわかりやすいことを大切にした。

ガイドブック作成メンバー
【専門家】広木　克行さん（神戸大学名誉教授）・石川　衣紀さん（長崎大学教育学部准教授）
【支援員】小岱　海さん・水町　凪さん
【デザイン】猿木　史穂さん
【記　録】三浦　直樹さん・森田　知美（当法人理事）
【事務局】安達　和美・居村　弘子・中村　結花・古豊　史子・古豊　慶彦（全員当法人理事）

3）実施スケジュール

日にち	実施内容
2023年 1月12日（木）	【全体】第1回校内別室支援ガイド作成ミーティング
1月26日（木）	【全体】第2回校内別室支援ガイド作成ミーティング
2月9日（木）	【全体】第3回校内別室支援ガイド作成ミーティング
2月24日（木）	【全体】第4回校内別室支援ガイド作成ミーティング
2月27日（月）	【個別】校内別室支援ガイド作成ミーティング
3月9日（木）	【個別】校内別室支援ガイド作成ミーティング
3月14日（火）	【全体】第5回校内別室支援ガイド作成ミーティング
3月23日（木）	【全体】第6回校内別室支援ガイド作成ミーティング（予定）

4）実施内容

①第1回校内別室支援ガイド作成ミーティング

<校内別室支援ガイド作成の目的について>
・現場で悩んでいる先生へひとつの実践例としての役割
・他の学校での取組を知ってもらうための発信手段であり、啓発的役割
・ガイドブックで支援の意識的ハードルを下げられるのではないか
・支援体制を整えるための情報提供

②第2回校内別室支援ガイド作成ミーティング

＜校内別室支援ガイドの構成等についてⅠ＞

・詳細は事業報告書に記載。それと合わせることで、ガイドブックの薄さを補完

・始まりは不登校の子どものために別室支援設立➡不登校以外の子どもにも支援するように

・支援員が学校に入ることで全ての子どもを対象に居場所の確保が望めるのでは

③第3回校内別室支援ガイド作成ミーティング

＜支援員3名の事例報告から考える＞

・支援員との関係は、「ななめの関係」であり選べる関係

・教室に行くことが難しい子どもはとても敏感➡信頼関係を構築するためにも約束を守ることが大切

・別室や支援員の役割、別室の意義の記載

・どのような人（どのような研修を受けたかなど）が支援員として関わるのか記載した方が、安心感を与えられるのではないか

④第4回校内別室支援ガイド作成ミーティング

＜校内別室支援ガイドの構成等についてⅡ＞

・先生方の理解があることが、子どもたちが有効に別室を利用できる重要な条件のひとつ

・小学校、中学校それぞれでの具体的な困りごとを紹介して対応方法を記載する

・小学生は発達段階という視点も必要

➡不満や悩みを言葉にするのが難しい、そのため行動に対し注意深く見ることが大切

・表現するときは先生方になじみ深い言葉（フレーズ、単語）を使うと伝わりやすいかもしれない

➡文科省などの文章によく出てくる言葉などを意識的に使ってみる

⑤第5回校内別室支援ガイド作成ミーティング

＜校内別室支援ガイドサンプル版の改善点や修正点の意見交換等＞

・細かい文章の表現方法のすり合わせ（伝わりやすいように配慮）

・「別室や別室支援員の役割について」の部分のデザインについて

➡視覚的な伝わりやすさを重視し修正

・やわらかく読んでもらうなら「ですます調」の方がいいかもしれない

➡ガイドブックの説明でない箇所は「ですます調」で統一する

●他地域の先進事例を学ぶための事業視察 **視察先：認定 NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス様**

1）目的

アウトリーチ（訪問）支援を中心とした様々な取り組みを行っている認定 NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス（佐賀県）へ事業視察に行き、主に佐賀市教育委員会から委託を受けている事業について学ぶことを目的とした。

2）内容

団体事務所へ理事3名で伺い、認定 NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事の谷口仁史様に事業についての説明及び質疑にお答えいただいた。

視察メンバー
中村 結花・古豊 史子・古豊 慶彦（全員当法人理事）

3）実施スケジュール

日にち	実施内容
2023 年 3月 1 日（水）	認定 NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス（佐賀県）事業視察

4）実施内容

視察の感想

３ 月 １ 日、メンバー３ 人で佐賀の認定 NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス（谷口仁史代表理事）に研修に行った。コロナ禍のおり、残念ながら学校内の見学はできなかったが、谷口さんの話の中には参考になるものが多く含まれていた。

印象に残ったのは、今ある施策やシステムに納得がいかないとき批判だけに終わったとしたら意味がない、対案を出し協働を考える、ということ。批判ではなく対案、そして協働を提案する。実績がないとその提案は受け入れてもらえないと思いがちだが、あきらめずに工夫することでわずかずつでも進んで行くのかもしれない。

スチューデント・サポート・フェイスの歴史はアウトリーチから始まっている。そこから見える必要な支援を拡充していくことで事業が広がっている。支援の場や機会を用意しても、いろんな理由でそこにたどり着けない人たちが多くいる。当団体が行っている別室支援事業も別室まで来ることのできる生徒は利用できるが、そこに来ることが難しい生徒も確実にいる。アウトリーチは相手の領域に入っていくという大変難しい作業だが、研修を積み対応を十分に熟知した人が関わることができれば、つながりが生まれる可能性があると思った。

●令和4年度社会福祉振興助成事業報告会の実施

1）目的

前年度と合計して約 1 年半実践した成果と課題を整理し、この事業が不登校支援の側面だけでなく、すべての子どもにとって必要な事業であることを、国の不登校支援施策等も交えながら伝え、今後この事業と同様の事業が長崎県内において様々な形で展開されることに繋げることを目的とした。

2）内容

昨年度と同様に、報告会を録画撮影し、編集したうえで当法人の YouTube チャンネルで公開する。年度末は対面形式でのイベントを呼び掛けても、参加対象としたい学校の先生方や教育委員会など関係機関の担当者も忙しく参加が難しいということを考え、動画公開後であればいつでも誰でも見れる形で実施することにより、対象者を含むこの事業に関心を持っている多くの方々へ確実に届けることを目指した。

3）実施スケジュール

日にち	実施内容
2023 年 3月2日（木）	実践報告会事前打ち合わせミーティング
3月12日（日）	令和4年度社会福祉振興助成事業報告会録画撮影 場所：長崎市市民活動センター「ランタナ」会議室（〒850-0022 長崎市馬町 21-1）
3月30日（木）	実践報告会の振り返りミーティング（予定）

4）実施内容

撮影は当団体事務局の他、事業モニタリングを委託している認定 NPO 法人アカツキ様にも来ていただき、対談形式で事業について深める時間も作った。

前半はスライドを使用しながら今年度の事業の中から学校内別室への支援員派遣事業を中心に、昨年度との違いなどを踏まえながら報告した。報告の中には、現在の国の不登校支援施策も少し盛り込みながら、この事業と国の施策のリンクする部分も示した。

後半は認定 NPO 法人アカツキの永田賢介様に質問をしていただきながら、前半の報告を聞く中でもう少し踏み込んで聞きたい内容などを対談形式で報告した。

NPO 法人　子どもの権利オンブズパーソンながさき
不登校児童生徒支援における学校内別室への支援員派遣事業報告書
2023年 3 月発行

編集・発行／NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき
（代表理事　古豊慶彦）

【法人所在地】
〒850-0057　長崎県長崎市大黒町 4-26-302（NPO法人長崎県子ども劇場連絡会内）

TEL：095-825-0533／FAX：095-825-6151
ホームページ：http://komb-nagasaki.sakura.ne.jp/
メールアドレス：komb.nagasaki@gmail.com

ホームページ QR コード

相談専用電話：080-3187-9156
相談時間：水曜日 11 時～19 時　木曜日 18 時～21 時　土曜日 14 時～18 時
※上記時間のみ相談電話がつながります
※祝祭日、年末年始などをのぞきます